

# 平成18年度 松本大学自己点検・評価報告書（抜粋）

## 1. 全学共通事項

### （1）研究・補助金関係

- ・研究成果の発表  
「松本大学研究紀要」第6号（通算57号）、「地域総合研究」第6号発刊
- ・科学研究費補助金の交付：学部2名、短大部各1名

### （2）教育関係

- ・観光ホスピタリティ学科開学科（4月1日）に伴い、記念講演会と記念公開授業実施。  
記念講演会 4月27日（木）  
「日本の伝統文化を活かした地域づくり」東洋文化研究家 アレックス・カー 氏  
観光ホスピタリティ学科特別公開授業 10月23, 26日（月、木）  
「コミュニケーションと癒し」 カニングハム・久子 氏  
「Accessible Tour - 台湾の現状から学ぶ - 」 エデン福祉財団
- ・アウトキャンパススタディ並びにサポータ支援システムによる教育効果の向上。
- ・基礎教育センターの充実  
学生相談室にて学生の基礎学力強化を図っていたが、基礎教育センターの本来の機能を果たすべく検討中である。
- ・日本公民館学会を本学にて開催。学生も参加、発表。

### （3）学生関係

- ・松本ぼんぼん参加：約100名（内湘北短大25名を含む）
- ・第40回梓乃森祭「Passion 情熱」実施：FM長野公開生放送
- ・女子ソフトボール部創設：女子ソフトボール部を創設し、強化部として学生を募集。  
記念講演：アテネオリンピック女子ソフトボール日本代表監督 宇津木妙子氏  
5月10日実施  
創部1年目にしてインカレ出場を果たす
- ・心の相談員を配置  
今年度は学生のメンタル的なフォローに着手したが、平成19年度から専門のカウンセラーが定期的に常駐して対応する体制を整える。
- ・松本大学新聞83号～85号発行

### （4）就職関係

#### ①キャリア教育の充実

- ・入学生対象に昨年度から実施した入学前キャリア教育を今年度も実施。在学生（就職を受けている学生を中心に）も参加させるシステムを取り入れて実施。
- ・全学年を対象に年1回キャリアカウンセリングを実施。2回以上希望する学生への受け皿として、毎月定期的にキャリアカウンセリングを受けることが出来る日を設

けた。

- ②平成18年4月1日より「就職課」から「キャリアセンター」へ改名。入学前教育から在籍中、就職指導へとトータルにキャリアの面から指導を行う体制を整えた。

#### (5) 広報関係

- ・第3回高校生コンテスト「日本の新しい扉を開こう！」を実施。  
県内外から175作品応募。結果は「松本大学地域活性化プロジェクト2006入賞作品集」として報告している。
- ・蒼穹第78号～81号まで4回発行
- ・「タウン情報」への学生による特集記事連載
- ・FM長野放送「Oasis79.7」本学教員リレートーク実施
- ・県内高校吹奏楽部生のためのプロ奏者による公開クリニック（第2回）

#### (6) 松本大学出版会関係

- ・腰原哲朗著「信州文学の肖像」
- ・佐藤進著「留学生を育てるーグローバル化社会の青年たちー」

#### (7) 国際交流関係

- ・ユネスコ・アジア文化センター松本大学ワークショップ開催（国際会議）  
8月3日（木）～8月7日（月）（5日間）  
公開シンポジウム 8月6日（日）  
「コミュニティ学習センターネットワークおよび連携を通じた地域開発に関するアジア太平洋ワークショップー信州・松本の公民館に学ぶ、アジア太平洋の地域づくりに活かすコミュニティ学習センターの可能性～2006松本ワークショップの成果を踏まえてー」
- ・パルドビッチュ大学（チェコ）訪問 6月24日（土）～7月1日（土）
- ・パルドビッチュ大学 マレック学長来学、提携調印。

#### (8) エクステンション・センター関係

- ①講演会・シンポジウム開催
- ・ユネスコ国際会議を受けてパネルディスカッション実施  
「公民館・再発見 松本・塩尻地域の公民館を世界はどう見たか」
  - ・オープンカレッジ「地域づくり学習会・研修旅行」、「女性企業家に学ぶ」
  - ・まちづくり公開講座「富士宮やきそばによる市街活性化の舞台裏」
  - ・「世界に広がるエコビレッジ：持続可能な環境にやさしい街づくり」
  - ・講演会：宇津木妙子氏講演会、池内了氏公開講義
  - ・パソコン教室・囲碁教室 他
- ②相互点検・GPフォーラム開催
- ③委託事業
- ・木曾福島町観光情報の韓国語翻訳業務

- ・信州長野県観光協会：「温泉地のまちづくり」に関する委託研究
- ・信州長野県観光協会：「若者のスキー志向」に関する委託研究
- ・松本市観光温泉課：観光ホスピタリティカレッジの運営  
平成 18 年度も継続してカレッジ運営を行う予定。
- ・ユネスコ：「公民館が主体となった新村地区のコミュニティづくりと松本大学の役割」8月3日～7日 国際会議を本学にて開催する。

### (9) 施設充実

- ・新学部関係工事：6号館新築工事、正門通路工事
- ・拡張工事：図書館拡張工事、総務窓口工事
- ・修繕工事：4号館正面玄関工事、弱電総合盤修繕、1号館応接室・研究室壁塗替  
図書館増設

### (10) 新学部設置準備

新学部設置申請のため、新学部設置準備室が設けられ申請業務が行われた。

- ・人間健康学部の設置認可  
11月30日文科科学省より「松本大学人間健康学部」の設置認可がおりる。

### (11) その他

- ・文科科学省委託事業  
社会人学び直しニーズ支援プログラム 観光ホスピタリティカレッジの運営  
ホスピタリティカレッジ記念講演会実施
- ・防火訓練および避難訓練を新村地区の住民と共に実施 (11/17)
- ・6号館棟新築・図書館増築工事竣工式 (2/24)
- ・松本市中小企業能力開発学院研修生受入 6名

## 2. 包括的な点検・評価と今後の課題（次のステージにむけて）

ここで平成 18 年度の松本大学の状況がどのようになっていたのかを振り返り、その到達点を押し量るとともに、今後の課題などにも簡単に触れておく。

### (1) 本学の現状認識

先ず何より松本大学松商短期大学部であるが、新しい教育体系が根付き学生募集に関して安定してきている。高大連携も始まり、キャリア支援をテーマとした特色 GP も獲得するなど、内容面における充実も高いレベルで同時に図られている。

このような短大部の好調さを背景に、松本大学では総合経営学部において 2 学科への再編成を行う余裕が出てきている。不安もあった第一期生の就職についても、短期大学での長年の実績と松商学園の伝統の強みも生かしてかなりの好成績を挙げることができた。地域社会、特に高校生（保護者も含め）の信頼を得ていることが大きな要因になったと確信している。

松本大学総合経営学部がひとまず成功を収め、次の新たなステップを踏み出し、短期大

学と同様な安定経営への道を模索する段階へ入ったところで、さらに次の手を打っている。それが人間健康学部の増設計画である。これは全体的な上げ潮機運に乗って、理系的要素を強く持った学部を立ち上げ、大学を総合化するなかでの経営の安定化を目指すプランと言える。都市と地方とで大学間の格差が広がるなか、地方大学が苦戦を余儀なくされている。本学の計画は、地方大学としては希有な、拡大基調の中での安定化を図ろうとする取組となっており、業界の注目も集めていると言える。

## (2) 堅実かつ新鮮な意欲的対応

こうした流れを支えるための新たな取組も旺盛に展開されている。入口、中身、出口と分けたときの、それぞれの段階毎に概観しておこう。

### ①入口

短大部では県立穂高商業高校との連携を実現し、教員間交流を含めた総合的な活動を展開する中で、学生募集だけでなく修学面で見ても有意義だと思われる内容へと発展する可能性を膨らませている。松本大学では女子ソフトボール部を強化クラブに指定し、学生募集では新たなチャンネルの開拓に加え、野球部とともにキャンパス活性化のシンボルとしての役割を担ってくれることを目論んでおり、既に端緒的な成功を収めている。

情報化が進む中で、大学へのアクセスを容易にするために、優れたデザインのホームページの立ち上げに、企画広報課が中心となって取り組んでおり、特に記事の新鮮さについては定評を得てきている。「蒼穹」を始め紙媒体の広報も、大学の発展とともにますます充実してきており、魅力ある内容が提供できている。高校生を対象としたアイデアコンテストを企画するなど、大学名と教育内容のディスクロージャーに向けた新しい可能性も常に意識されている。

### ②中身

新学科と新学部の立ち上げがその最たるものである。短期大学の側でも新しいフィールドを常に模索するなど、準備に怠りはない。また、県下 7 大学の単位互換制度も始まっている。心のケアへの対応への準備が着々と進み、入学前からの全入学生を対象とした大規模なカウンセリングの実施については、全国の注目を集めている。

地域連携を取り入れたユニークな教育手法も地に着いており、各種新聞報道も相俟って県内での評判も定着して来つつある。強化クラブの活躍は前述の通りであるが、こうした雰囲気にも先導され、学生の自主活動も盛んで梓乃森祭は地域住民との連携も進み、内容面での厚みに比例して年々参加者が増え、FM長野放送で実況中継もなされるなど大変な盛り上がりを見せている。大学の存在が地域社会を元気にしている象徴的なイベントであり、取り組んでいる学生の人的成長にも目を見張るものがある。

### ③出口

短期大学部でキャリア教育をテーマに特色GPに採択されたことが、この面での本学の優位性を端的に表している。就職しても3年以内に3割が離職してしまうと言われる状況

を打破し、定着率も高く地域社会からも信頼される就職活動の原点を模索する、先進的な取組になっていると思っている。このことを表現する意味合いを込めて、これまでの就職課からキャリアセンターへと名称変更もなされている。どこの大学においても多様な学生が入学する中で、これまでとは違った難しさをどのように克服していくのか、大きく見れば日本の将来を占う内容でもあり、キャリアセンターのこれからの活動が注目される。

### **(3) 経営側の視点**

以上のように、下からの強力な支えを背景にして、大学全体が伸びてきているという構図になっている。活動量の増大を見込んだ人的・物的支援策も経営側では冷静に見ておく必要があるのは言うまでもない。

施設の充実などハード面での整備にも絶えず気配りを行う必要があるが、学生の福利厚生を考えつつ、順次手を付ける予定でいる。